



審査証明第0404-A号

建築物等の保全技術審査証明書

技術の名称：減圧吸引ピグによる排水管更生技術「UPL工法」

対象管種：配管用炭素鋼管（白）
水配管用亜鉛めっき鋼管
排水用鋳鉄管

標記技術の内容について依頼者より提出された開発の趣旨及び開発目標に基づき証明するものである。

（開発の趣旨）

既存の集合住宅、その他の建築物等に施工された排水管で、特に、配管用炭素鋼管（白）、水配管用亜鉛めっき鋼管、排水用鋳鉄管の防錆対策と配管の延命化を図るため、配管を取り外すことなく、排水管内壁に良質な防錆塗膜を形成する技術と管理体制を確立し、その普及を図る。

（開発目標）

- 管内研磨はエポキシ樹脂塗料の塗布に十分な研磨度を確保すること。
- 管内塗布はエポキシ樹脂塗料0.5mm以上の塗膜を直管、曲り部に確保すること。
- 集合住宅各戸当りの工期はできるだけ短く、排水使用可とする実質的な工期は2日以内に終了すること。

（財）建築保全センターの建築物等の保全技術審査証明実施要領に基づき、依頼のあった減圧吸引ピグによる排水管更生技術「UPL工法」の技術内容について下記の通り証明する。
但し、この技術は、平成16年3月24日に審査証明されたものについて、平成21年3月24日に更新されたものである。

平成21年3月24日

建設技術審査証明協議会会員

財団法人 建築保全センター

理事長 尾島 俊雄

記

1. 審査証明結果

本技術について、前記の開発の趣旨、開発目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- 「管内研磨はエポキシ樹脂塗料の塗布に十分な研磨度を確保すること」については、管内を最初に高圧ジェット水により洗浄して軟質物を除去し、次に、硬いスケール・錆こぶ等をメカニカルクリーニングマシンで除去研磨し、更に、高圧ジェット水による洗浄を行うとしていることにより、十分な研磨度が確保できるものと判断される。
- 「管内塗布はエポキシ樹脂塗料0.5mm以上の塗膜を直管、曲り部に確保すること」については、管径に応じた塗料量の設定、混合方法、空気風量の調整、硬化後内視鏡による検査、サンプル管による塗膜性能の確認を行うとしていることから0.5mm以上の塗膜厚を確保できるものと判断される。また、形成された塗膜は、JISや関連基準に定められた耐薬品性試験、付着性試験、付着強度試験、塩水噴霧試験、温度サイクル試験、耐湿性試験等から、耐薬品性、接着性および十分な耐久性を有するものと判断される。
- 「集合住宅各戸当りの工期はできるだけ短く、排水使用可とする実質的な工期は2日以内に終了すること」については、2日目の午前中に塗布を完了し、指触硬化確認後、管内検査、復旧、通水テストを行うとしていることにより、排水使用可までの実質的な工期は、2日以内に終了できるものと判断される。

2. 審査証明の前提

提出された資料には事実と反するものがないものとする。

3. 審査証明の範囲

審査証明は、依頼者より申請された開発の趣旨、開発目標に対して作成された技術概要説明書、技術審査証明資料に記載された範囲とする。

4. 審査証明の詳細（別添）

5. 審査証明の有効期限

平成26年3月23日

6. 審査証明の依頼者

有信株式会社

住所 東京都中野区江古田1丁目38番9号